

大津市原子力災害避難計画の継続

3回も繰り返し起きている高浜原発の蒸気発生器細管の損傷などに関する 質問・要望書

大津市長 佐藤健司 様

2020年3月26日

この度は、大津市長にご就任され、大変お忙しくされていると存じます。

大津市は、日頃より大津市民の安全と、関西の水源である琵琶湖の保全にご尽力いただき、大津市民として、また滋賀県民として大変感謝しております。また、東日本大震災による福島第一原発事故を受けて、独自にUPZを47km圏内に定めて避難計画を作成されたことは、全国の自治体としても画期的なことと考えております。

佐藤市長には、3月7日の「原発のない社会へ 2020 びわこ集会」にメッセージをお寄せいただき、ありがとうございました。市長として原発のない社会を目指しておられることを、大変嬉しく思っております。

この度の金品受領事件で、原発の推進、建設において関西電力と地元自治体、関係会社の癒着と原発マネーの還流が白日の下にさらされました。3月14日に発表された第三者委員会の調査報告では、関電の役職員75人が元助役や関連企業から総額約3億6千万円もの金品を受領していたことが判っています。金沢国税局の税務調査が入るまで30年以上も隠し通し、賄賂を渡していた地元企業を優遇していた関電のガバナンスやコンプライアンスの欠如は底なしです。原発を推進するために巨額の費用をつぎ込み地元工作が行われてきたこと、地元住民の反対や批判の声が握りつぶされてきたことが明らかです。

このような関電は、高浜4号機のSG細管で異物による減肉が確認されたにも関わらず、原因物質の発見もないまま再稼働に踏み切りました。SG細管の異物混入、減肉は一昨年の高浜3号機に続いて2度目でした。昨年11月6日と今年1月22日の滋賀県への申し入れで、県は「異物が全て回収されるまで、運転してはならないと関電に求める」としていました。実際に再稼働予定日直前の1月29日にも関電を県に呼んで、異物を見つけないままの1月末の再稼働は容認できない旨を伝えています。それにもかかわらず、関電は原因究明できないまま、翌1月30日に4号機を再稼働させました。

そして2月18日に、またもや、定期点検中の3号機のSG細管で60%近い減肉が確認されました。一昨年の事故の原因究明がきちんとなされており、減肉の原因が取り除かれておれば、今回の事故は起こらなかったはずですが。2月21日に滋賀県へ緊急要請書を提出した際、県は「全ての原発を止めて検査するよう関電に伝えた」と回答しましたが、関電はこの県の要望も無視して同月26日に4号機の営業運転を開始しました。これは関電が、原発立地地元の住民のみならず、被害地元である滋賀県民の命を預かる自治体をも軽んじる体質であることの現れです。

また、関電は老朽原発の高浜1、2号機、美浜3号機の再稼働と、特定重大事故等対処施設の完成を目指していますが、工程の見直しで特重施設の工事期間の短縮を目論んでいます。ここ数年、クレーン

の倒壊事故、トンネル内でのガス中毒事故、作業員の転落事故等、関電の原発敷地内での事故が後を絶ちませんが、3月13日には高浜原発の安全対策工事でとうとう死亡事故まで起きてしまいました。監督者としての関電の責任は重大です。これらの事故はいずれも基本的な安全管理ができていれば起こらなかったはずの事故です。目先の利益を優先して工事を急ぐあまり、作業者の安全確保が疎かになったり、工事内容に手抜きが生じたりしているのではないかと危惧します。

このように安全管理を軽んじる関電に原発を動かす資格はないと、私たち市民は考えます。

福島第一原発では地震と津波が原因で過酷事故が起りましたが、原因が何であれ、ひとたび過酷事故が起れば放射性物質の流出、拡散を止める術はありません。福島第一原発事故も大変大きな被害をもたらしましたが、それ以上の被害を及ぼす過酷事故が起きる可能性があることを、私たちは忘れてはなりません。

大津市長には、住民の暮らしが福井の原発群の風下にあることを忘れず、福島の原発事故を自分事として認識し、安全を軽視した原発の稼働をさせないように電力会社を監視するとともに、原発に頼らない社会の構築に向けて行政に携わっていただきたいと思います。

新市長にも、引き続き原子力防災にご尽力いただけるよう切に願い、以下の質問と要望にお答えいただきたく存じます。

質問1 住民のスクリーニングについて

今回、住民のスクリーニングのみでしたが、一人につき3分程度の時間をかけて大変丁寧なスクリーニングをされていました。しかし、リュックを背負ったまま、手袋をはめたままスクリーニングしているレーンがありました。これではちゃんと計測できません。スクリーニング方法は統一されていますか。

質問2 安定ヨウ素剤の説明について

2-1 事前配布がなされていない現在、安定ヨウ素剤は避難する途中の一時避難場所で問診を経て配布され、服用することになっています。どのタイミングで服用するのかを住民が体験しておくことは大切と考えます。今回の訓練では、安定ヨウ素剤（または安定ヨウ素剤に見立てた飴等）を配布されましたか？

2-2 乳幼児用の安定ヨウ素剤について「シロップ」という表現をしていましたが、大津市はゼリー状ヨウ素剤を持っていないのですか。

質問3 避難中継場所について

以前申し入れをした際に大津市が避難中継場所として設定していた場所は、避難してきた車両と避難先に行く車両が同じ通路を通らなくてはならない、自然災害の避難所や高島市の原子力災害時の県内避難場所にもされている等、避難中継場所には不適切であることが判っていました。その後、避難中継場所として適切な施設を確保されましたか。

<要望1>

大津市はこれまで国が指定する 30km 圏を超え 47km 圏内を UPZ と位置づけ、原子力防災避難計画を作成し、防災訓練を行ってきました。新市長もこの施策を是非継続してください。

<要望2>

毎回の防災訓練で放射線の基礎知識として解説されますが、いつも、自然界の放射線と原発事故で出た放射線を同じレベルで説明し、内部被ばくと外部被ばくの影響を同じであるとし、低線量なら被ばくしても大丈夫と話し、健康への影響を塩分過多や野菜不足と比較するなど、放射線の影響を正しく理解させる内容ではありません。放射線のリスクはガンだけではなく、低線量でも影響があるというのが今や常識です。「これくらいの放射線なら大丈夫」という原発事故の被害を小さく感じさせる内容には問題があります。住民が放射線を正しく理解できる内容にしてください。

<要望3>

安定ヨウ素剤についての説明が、今回は、飲むタイミングによる効果の違いなどに全く触れず、全体で3分ほどと簡単すぎました。服用のタイミングの説明は特に重要なので必ず入れるべきと考えます。原子力防災訓練では安定ヨウ素剤（代わりに飴でも可）の配布と服用の訓練を入れ、住民説明会での説明も、もっと詳しい内容にしてください。

<要望4>

今回の訓練では車両のスクリーニングができない小松小学校が避難中継場所として使われましたが、車両のスクリーニングは必要です。スクリーニングができる避難中継場所を確保してください。

<要望5>

滋賀県は高浜3号機のSG細管減肉について、関電に「動いている他の原発もすべて止めて検査するように」と強い姿勢で対応しています。万が一のことがあれば被害地元になる大津市からも、関電に対して高浜3号機の減肉の原因究明ができるまで同じ事故が起きた4号機を止めることと、事故の再発防止に全力を注ぐよう要請してください。

<要望6>

関西電力は、国内で初めて、40年超えの老朽原発（高浜1・2号、美浜3号）を今年前半にも再稼働しようとしています。ただでさえ危険な原発ですが、原子炉容器等の重要な機器は取り換えができず、劣化が激しく一層危険です。住民の安全を守るために、老朽原発の再稼働に反対を表明してください。

2020年3月26日

避難計画を案ずる関西連絡会、避難計画を考える滋賀の会

この件の連絡先：避難計画を考える滋賀の会